

全国建設青年会議 全国交流会等開催概要について

平成20年12月現在

会議名 (幹事ブロック)	日程	開催場所	議題等 *下線部は主な議論・メインテーマ等	大会宣言、総括意見等	出席者等
1 第1回 建設青年会議全国交流会 (中部ブロック幹事)	1997/12/17 13:00～ 15:30	東條会館本館 6F 霞の間 (東京)	1. 開会 2. 趣旨説明 3. 来賓挨拶 4. 出席者紹介 5. 議題 <u>1)各ブロックの活動の現状の問題点</u> <u>2)意見交換</u> <u>3)今後の活動方針</u> 4)その他 6. 閉会		本省、各地建、 担当官。東北・ 中部・四国ブ ロック建設青年 会議並びに各県 建設協会、青年 部
2 第2回 建設青年会議全国交流会 (中部ブロック幹事)	1998/12/9 14:00～ 16:30	サンケイ会館 5F 512号 (東京)	1. 開会、趣旨説明 2. 来賓挨拶 3. 出席者自己紹介 4. 議題 <u>1)全国交流会の活動目標の確認</u> <u>2)組織化されているブロックの活動状況と組織化に向けての 意見及び提案</u> <u>3)意見交換(受注者責任)</u> 4)次回の開催時期と幹事ブロック 5. 閉会		本省、各地建、 各自治体担当 官。東北・北 陸・中部・四国 ブロック建設青 年会議並びに各 県建設協会、青 年部
3 第3回 建設青年会議全国交流会 (四国ブロック幹事)	1999/12/7 13:00～ 17:30	東條会館本館 1部 3F 青柳 の間 2部 3F 桃李 の間 (東京)	[1部] 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 議題 1)全国会議の開催について 2)全国交流会の今後の進め方について 3)その他 5. 閉会 [2部] 1. 開会 2. 来賓挨拶 3. 出席者紹介 4. 議題 1)新組織の紹介 <u>2)活動報告</u> <u>3)全国会議の開催の提案</u> <u>4)意見交換(CALS、ISO)</u> 5. 閉会		本省、各地建、 担当官。北海 道・東北・北 陸・中部・四 国・九州ブロッ ク建設青年会議 並びに各県建設 協会、青年部

<p>4 第1回 建設青年懇談会全国会議 (四国ブロック幹事)</p>	<p>2000/9/14 13:30 ~ 17:00</p>	<p>年金基金 センター ター セブンシ ティ 大ホール (東京)</p>	<p>(1)開会 (2)来賓挨拶 <u>メインテーマ「地域に求められる建設産業の将来像」</u> (3)パネルディスカッション1 テーマ 「CS(顧客満足度)を高める社会資本の整備」 座長 建設経営コンサルタント 平 智之 氏 (4)再生カルテ/10の提言 (5)パネルディスカッション2 テーマ 「建築市場は(ハードな技術ではなく)ソフト技術の競争時代」 座長 京都大学大学院工学研究科 助教授 古阪 秀三 氏 (6)活動宣言 建設産業を担ってゆく使命感と誇りを持って、次世代のクオリティ オブ ライフを向上させる建設事業の意義を理解し、社会に説明する力を身につける。 国民の生活様式、価値観が多様化する中で、全国の地域建設業者が情報交換しながら社会のニーズに的確に対応できるように研鑽努力し自己変革を成し遂げる。 建設業者としての役割のみならず、地域づくりの技術をもった地域の一員としての役割を認識して社会貢献に努める。 (7) 閉会</p>	<p>(九州ブロック 西釜会長) 我々の先輩は、かつて日本国民が熱望して止まない地域の社会資本の整備を、現在からは想像もできない諸条件を、身を削る努力で克服しながら進めてまいりました。しかし今社会のニーズが多様化する中、先輩達とはまた違う厳しい試練を与えられております。ここでその使命をしっかりと受け止め、全国各地の中間達と真剣に議論しました。そして本日皆様の熱い期待のもと、果たすべき役割の重要性を再認識し、我々の活動の目標を定め、ここに宣言したいと思います。</p> <p>宣言文 1.建設産業を担っていく使命感と誇りを持って、次世代のクオリティオブライフを向上させる建設事業の意義を理解し、社会に説明する力を身につける。 2.国民の生活様式、価値観が多様化する中で、全国の地域建設業社が情報交換しながら、社会のニーズに的確に対応できるように、研鑽努力し、自己変革を成し遂げる。 3.建設業社としての役割のみならず、地域づくりの技術を持った地域の一員としての役割を認識して、社会貢献に努める。</p>	<p>本省、各地建、各自治体担当官。北海道・東北・北陸・中部・関東・中国・四国・九州ブロック建設青年会議並びに京都府建設協会、青年部</p>
<p>5 第4回 建設青年会議全国交流会 (東北ブロック幹事)</p>	<p>2001/2/28 13:00 ~ 17:15</p>	<p>経団連会館 9Fクリスタル (東京)</p>	<p>[1部] 1.開会、趣旨説明 2.東北は訴える! 3.出席者紹介 4.意見交換 5.閉会 [2部] 1.開会 2.講話(国交省ビジョンと建設業を取り巻く諸問題) 2.来賓挨拶 3.意見交換(現状と諸問題、21世紀の社会資本のあり方) 4.ご来賓ご意見 5.次回幹事ブロック決定 6.閉会</p>		<p>本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・中国・四国・九州ブロック建設青年会議並びに各県建設協会、青年部</p>

<p>6</p> <p>第5回 建設青年会議全国交流会 (九州ブロック幹事)</p>	<p>2001/12/6 13:30 ~ 17:30</p>	<p>新全国町村 会館 (東京)</p>	<p>[1部] 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 出席者紹介 4. 趣旨説明 5. 意見交換 6. 次回幹事ブロック決定 7. 閉会</p> <p>[2部] 1. 開会 2. 幹事ブロック代表者挨拶 3. 来賓紹介 4. 基調講演(建設産業と21世紀の国づくり) 5. 各部門の講話(3名) 6. 意見交換(発注システム・業行政構造等の問題点、建設業の広報等) 7. 閉会</p>		<p>本省、各地整、 担当官。北海 道・東北・関 東・北陸・中 部・中国・四 国・九州ブロ ック建設青年 会議並びに各 県建設協会、 青年部</p>
<p>7</p> <p>第6回 建設青年会議全国交流会 (北陸ブロック幹事)</p>	<p>2002/11/25 13:30 ~ 18:00</p>	<p>グランド アーク半蔵 門 (東京)</p>	<p>部 1. 開 会 2. 内容説明 3. 個別9テーマによる討議 テーマ「3年後に望まれる企業像」 1. IT化について 2. 地域の貢献について 3. 人材の育成を軸とした技術者の確保について 4. 経営基盤の強化について 5. 各企業のイメージアップ戦略について 6. ダンピングへの対応について 7. 環境問題への取組みについて 8. 建設業界からみた公共事業のあり方について 9. 企業評価と入札方法について</p> <p>部 1. 開会 2. 幹事ブロック代表挨拶 3. 来賓紹介 4. 主賓挨拶(講演) 演題:「建設業よ元気を出せ」講師:大石技監</p> <p>部 1. 討議結果発表 2. 意見交換 3. 総 評 4. 閉 会</p>		<p>本省、各地整、 担当官。北海 道・東北・関 東・北陸・中 部・中国・四 国・九州ブロ ック建設青年 会議並びに各 県建設協会、 青年部</p>

<p>8 第2回 建設青年会議全国会議 (北海道ブロック幹事)</p>	<p>2003/11/28 13:00～ 17:05</p>	<p>椿山荘 (東京)</p>	<p>1部 ・開会 ・来賓入場 ・開会宣言 ・会長挨拶 ・来賓紹介 ・来賓挨拶 ・来賓退場 2部 基調講演 講師 地域経済研究所 理事長 阿座上 洋吉 氏 メインテーマ 『地域建設産業の市民化』 サブテーマ 建設業の革新経営と地域経済～新型施工支援システムの新しい思想～ 休憩 3部 パネルディスカッション コーディネーター、パネラー、オブザーバー紹介 コーディネーター (北海道 新井) パネリスト 中部、東北、四国(各会員1名) スーパーアドバイザー 阿座上先生 アドバイザー 松本コスト企画室長、池田中部企画調査官 4部 会議(大会)宣言 決議文の採択・宣言 5部 閉会式 閉会挨拶 閉会</p>	<p>第二回全国会議 会議宣言 我々全国建設青年会議は、建設産業にとりわけ地域建設産業の存在意義を広く正しく社会に発信すると共に、市民社会のニーズを的確につかみ「建設産業の市民化」を促すため全国各地で共に行動することを宣言する。 1. 建設産業に対する多様化するニーズを的確につかむ。 1. 社会や市民とのより密接な関係を構築する。 1. 生産性向上に努め国益に合致する新しい価値を創造する。 全国建設青年の日制定 我々全国建設青年会議は上記決議に基づき「全国建設青年の日」を定め、「建設産業の市民化」を広くアピールすることをその目的として地域ニーズを的確に把握し、全国で共に行動することを取り決めるものとする。 「全国建設青年の日(7月28日)」</p>	<p>本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州ブロック建設青年会議並びに各県建設協会、青年部</p>
<p>9 全国建設青年会議 第9回全国大会「ナショナルミーティング」 (中国ブロック幹事)</p>	<p>2004/11/30 13:00～ 17:30</p>	<p>東海大学校 友会館 (東京)</p>	<p>第1部 1 16年度活動報告、意見交換 1) テーマ1「建設業の市民化、地域とのパートナーシップ構築とその評価について」 2) テーマ2「岐路に立つ建設業経営の今後」 3) テーマ3「企業評価と入札制度」 2 意見交換結果・概要、方向性等のまとめ 第2部 1 16年度活動報告 1) 準備会活動について、調査方法、意見交換の方法について 2) テーマ1について(地域活動事例調査結果についての説明、検討結果発表) 3) 四国CINCの活動説明(テーマ 地域再生参画をチャンスに) 4) テーマ2について(新分野・異業種進出事例調査結果についての説明、検討結果発表) 5) テーマ3について(企業評価、入札制度に関わる考察についての説明、意見交換結果発表) 2 最終意見交換結果概要報告 3 本省からのご意見等 4 事業終了宣言</p>	<p>国土交通省 意見 大規模工事は高い技術力を要する。そこへ会社の規模は小さくても技術力を高めて参入していく。 技術力選別の方法は、真の技術力とはかかると不適格企業をはじくためと2つに分けられる。 Q1.市町村工事に於いて、価格以外の技術力等を図りうるものの有無。 Q2次世代の技術力の育成に関して評価していくための方法。*技術力を継承し且つ業界の未来のためにも大きな課題である。の2つについて、協会にも投げ掛けているが、若手経営者においても研究等をお願いしたい。</p>	<p>本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州ブロック建設青年会議並びに各県建設協会、青年部</p>

<p>10 全国建設青年会議 第10回 全国大会 (関東ブロック幹事)</p>	<p>2005/12/2 13:30 ~ 18:30</p>	<p>「六本木アカデミービルズ40」 (東京)</p>	<p>第1部 メインテーマ「百世の安堵を図るために今」 開会 基調講演 (参議院議員脇雅史先生による「品確法」についてのご講演) 第2部 分科会 ・第1分科会「災害と闘う」 ・第2分科会「地域貢献活動」 ・第3分科会「美しい街づくり」 ・第4分科会「企業評価と入札制度」 第3部 全体会議</p>	<p>各意見交換結果(成果)を踏まえて、各地域、各社、自分達の子供、孫に胸を張って引き継いでいける業界、企業としていけるよう努めていく。</p>	<p>本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州 ブロック建設青年会議並びに各県建設協会、青年部</p>
<p>11 全国建設青年会議 第11回全国大会 (近畿ブロック幹事)</p>	<p>2006/11/24 14:00 ~ 17:30</p>	<p>「ホテルニューオータニ東京」 (東京)</p>	<p>1.開会 テーマ「建設業進化論～社会貢献としての防災～」 2.主管 近畿ブロック会長 挨拶 3.基調講演「未来志向で地域・現場に活を」 4.地区ブロックにおける地域との関係づくりの事例を報告 5.防災ネットワークの課題と解決に向けたパネルディスカッション コーディネーター 作家 山根 一真 氏 6.全国統一事業(防犯の取り組み)発表 7.講評 8.次年度開催ブロック(中部)挨拶</p>	<p>(総括として) ・防災協議会等に建設業者を加えて、意見を参考にして災害時の参考ししたいとの意見。 ・より適切な防災対策が取れるよう官民一体となった取り組みが必要。 全国統一事業(防犯の取り組み)発表 全国建設青年会議の全国的な地域密着企業の集合体である特性を生かして、「地域での防犯に対する取り組み」を、各地域毎に警察や教育機関、関係各所と連携を取りながら、展開していくことを宣言。</p>	<p>本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州 ブロック建設青年会議並びに各県建設協会、青年部、NTTドコモ、兵庫県豊岡市長</p>
<p>12 全国建設青年会議 第12回全国大会 (中部ブロック幹事)</p>	<p>2007/11/30 13:00 ~ 17:50</p>	<p>明治記念館 (東京)</p>	<p>1.開会 2.主管 中部ブロック会長 挨拶 3.基調講演「発注者・受注者のパートナーシップの再構築」 4.過去10年間の全国大会の成果のまとめ 5.ケーススタディ・メインテーマ「今、経営を考える-「創意」と「技術」で未来を切り拓く」 コーディネーター 中部大学 経営情報学部長 小野 桂之介 氏 6.結果総括・講評 * 会議場前室に展示コーナーを設け各地区における活動等を紹介</p>	<p>講評の総括は、甘い、厳しさが足りない(公共で守られて来たことから脱していない。)、生き残りに積極的になること。 発注者により淘汰を進めて頂いて、需給バランスをまず是正。そのうえで、ある程度余裕を持って改善をしていくこと。 倒産、廃業もあって、企業数が是正。そうなった時、残るべき企業は?受発注者のパートナーシップは?技術力・地域のニーズの向上は?等々により、経営者としてのビジョンをしっかりと考えていく。</p>	<p>本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州 ブロック建設青年会議、元 本田技研(株)代表取締役専務、NHK 解説委員</p>

13

第13回
全国建設青年会議
全国大会
(四国ブロック幹事)

2008/11/28
13:30 ~
18:05

経団連会館
(東京)

- 1.主催者挨拶
- 2.来賓紹介
- 3.国土交通省・ご講演 テーマ 「パートナーシップと価値観の共有」
- 4.各ブロック代表者とマスコミ関係者によるパネルディスカッション
メインテーマ 「地域における建設業の果たす役割とは」
そして「地域に必要な建設業者となるためには」
- 1) 趣旨・各ブロックでの座談会実施等の報告
- 2) コーディネーター、パネラーご紹介・ご登壇
コーディネーター
高知工科大学 工学部 社会システム工学科 教授 草柳 俊二氏
- パネラー
北海道建設新聞社、仙台経済界、中日新聞社、NHK名古屋局、西日本放送
- 3) パネルディスカッション
 - (1) テーマ1 現状と担っている役割について
 - (2) テーマ2 地域建設業者の有意性を活かして地域のニーズを適えていく方向性
- 5.大会宣言(成果)
- 6.国土交通省からの講評
(閉会)
- 7.28「全国建設青年の日」にちなんだ、各地域の啓発・広報等の取り組みを展示コーナーで紹介

終戦後の復興から今まで建設業界は、先代、また、自分達も含めて、欧米に比べ遅れていた社会資本の整備・人口増と高度経済成長・台風地震災害に対応すべくひたすら公共土木工事を受注・施工してまいりました。
しかし発注者から与えられた設計書に従って見積り・入札・施工し、完成するという従来の執行方法の中で、我々自身、本来の発注者である一般住民の方への事業・工事に対する説明責任をややもすればおろそかにし、いつのまにか社会資本整備・公共工事に対する認識そのものにも大きなギャップが生じていました。その上、業界側の談合事件・贈賄事件等の不祥事もあり情報発信不足から、我々の災害に対する取り組み・ボランティアなど社会貢献の姿勢までもが素直に受け取られない世論になっています。
限られた財源の中また人口減少・高齢化していく地方の中で、真に地方に必要とされる公共工事を住民の声から拾い上げ、住民自身が納得できる発注・施工システムを構築することへの協力。また現在、我々が担っている災害復旧工事や除雪・凍結防止に代表されるような国民生活を守るための日々の仕事を大事にしていくことで、地域に密着し、より地域の発展に尽くすという努力を惜しまないことが、地域に必要とされる建設業者であり、我々の存在意義だと申し上げ大会宣言と致します。

本省、各地整、担当官。北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州ブロック建設青年会議、NHK 社会部、建設経済研究所他業界紙